

warp

MAGAZINE JAPAN
MORE FUN, MORE LOVE

#245 2018 www.warpweb.jp 〒107-8331 東京都港区赤坂 780 yen (税別)

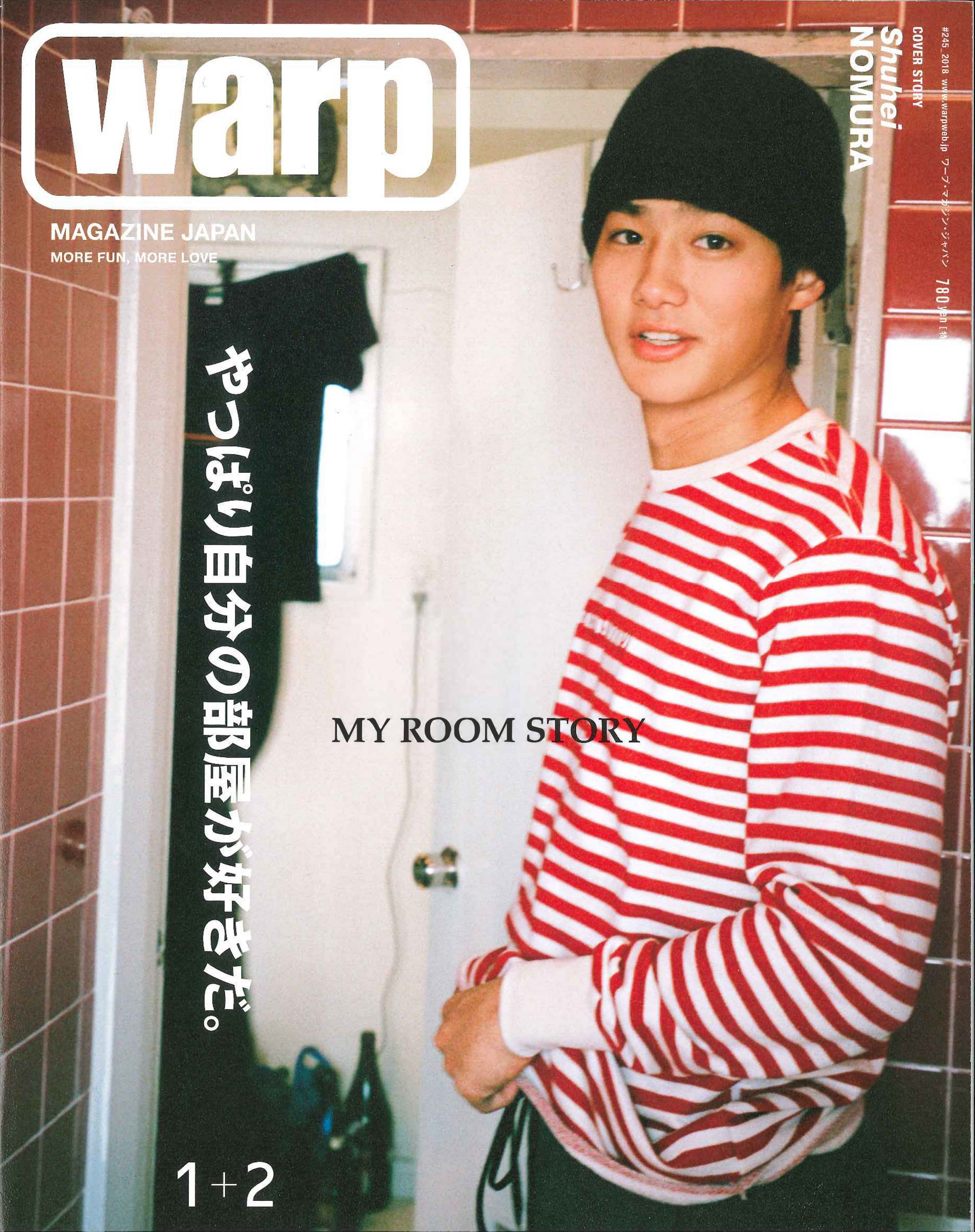
COVER STORY

Shuhei
NOMURA

やっぱり自分の部屋が好きだ。

MY ROOM STORY

1+2





A OUTDOOR THING!
CHAPTER. 1

インテリアとしてのアウトドア、 風が吹き抜けるような部屋

アウトドアとは、インテリアとは、なんて語るのは、すべてがボーダーレスになった今の時代にはもう古くさいのかもしれない。けど、スタイリスト遠藤慎也が創るアウトドア視点の「部屋」を、ひとつの提案として眺めて欲しい。そして、写真に添えられた短いストーリーで想像を膨らませて欲しい。

僕
の友人に大のキャンプ好きがいる。週末はほとんどどこかのキャンプ場にいるはずだ。仲間や友人やその子どもたちと、薪割りをしたり焚き火をしたりマシュマロを焼いたり料理をしたり、釣りを楽しんだりするのだという。暗くなったら布を張って即席のスクリーンを用意し、映画まで上映するというのだから驚いた。そもそも人はどうして貴重な休日にわざわざ遠出して、広大な自然の中に身を置きたいと思うのだろうか？ せっせと荷物を運び、不自由な環境で食べたり飲んだり寝たりするのだろうか？ 最近では装飾品や花まで用意して、アウトドアにひとつの居住空間を構築するという。せっかく仕事がないのだから、家で身体を休めればいいじゃないか。でも人間というのは複雑なもので、心の休息と身体の休息は違うらしい。「焚き火の前になると、将来のことや、仕事を辞めて好きなことをしようとか、普段できないような話もできるんだ」と友人は言う。つまり、アウトドアで過ごすことが、彼なりの休息なのだ。ということは、外のフィールドを部屋に持ち込むことで、心も身体もリラックスできるんじゃないか。アウトドアアイテムだらけの彼の部屋を眺めていたら、そんな風に思えてきた。

ポーランド軍弾薬箱 4000円、amabroのウッドアニヘッド 1万2000円(ともにBRICK&MORTAR)、BasShuのキャビネット(本体) 1万6800円、(カバー) 2万3000円、ウールブランケット 2万3000円、パッチワークマット 1万3000円、ロングフェザークッション 90円(すべてBasShu公式オンラインストア)、DAM CONTAINERSのボックス 各1万3000円、Vintage デッキチェア 3万6000円(すべてThe Tastemaker Co.)、chillingcampeepsのCCスタンダードテーブル 4万8000円(CAMPonPARADE)、Wildlife Garbのバードフィーダー 4500円、WMGのキャンドルホルダー 2万円、CERABELLAのポールキャンドル 4000円、CERABELLAのサボテンキャンドル 8700円(すべてLIVING MOTIF)、YOKAのランドリーボックス 3000円、journal standard Furnitureのロフト2シーツファ 10万円(ともにjournal standard Furniture 吉祥寺店)、Petromaxのエレクトロランタン 2万円(スター商事)、その他すべてスタイリスト私物

部屋にある壁をすべて取っ払いたら、そのままキャンプサイトになる。



1 Petromaxのエレクトロランタン



2 Vintageのデッキチェア



3 BasShuのキャビネット

1 世界中で長く愛されてきた「Petromax」のランタンの明かり。心の底からホッとさせてくれるような柔らかな光を、そのままインテリアに生まれ変わらせたのが「エレクトロ」だ。家庭用コンセントで部屋の中でも安心。2万7000円(スター商事)
2 ヴィンテージフレームが味わい深いデッキチェアは、3段階にリクライニングできる優れたもの。アウトドアギアは、アースカラーやミリタリーカラーが多いので、オレンジの差し色は空間を明るくしてくれる。3万6000円(The Tastemakers & Co.)
3 耐久性の高いコットン100%のリップストップ生地で作られたキャビネット専用カバーはサイドポケットやフックなども充実。キャンプ道具の収納に使うのもおすすめ。(本体) 1万6800円、(カバー) 2万3000円(BasShu公式オンラインストア)
4 あえて無塗装の鉄部分と木の組み合わせが男前なテーブル。脚を外し、天板を丸めてベルトで止めればどこにでも持って行ける。標準の高さは370mmだが、注文時に指定すれば500mm、700mmにも変更可能。4万8000円(CAMPonPARADE)



4 chillingcampeepsのCCスタンダードテーブル

1_ドリッパー、サーバー、タンブラー、マグなどが好みのバランスでセットできるダブル
 コーヒードリッパースタンド。組み立て式で持ち運びも楽チンなので、数人でのキャン
 プにも重宝するはず。セットした後は動かさないよう要注意。9000円(INOUT)
 2_ヘラ紋りの職人が作っているという美しい銅のケトル。なかなか見かけないクラシッ
 クでデザイン性の高いフォルムは、生活の質をぐっと豊かにしてくれる。容量たっぷり
 2リットルなので、外でコーヒーを振るまうときにも。1万6000円(CAMPonPARADE)
 3_スタイリングを担当した遠藤さんが「アウトドアはもちろん、家でかなり使って
 います」と話したのが、このフォールディングトースター。食パンやマフィンなどを同時に
 4枚焼くことができる上、使用後は折りたたんで収納しておける。750円(A&F)
 4_ステンレスのタフな業務用ディスペンサーは大人数で集まるときも便利だが、水や
 お茶を入れれば普段使いにも。コンパクトで使い勝手のいいナイフ&カッティングボー
 ドのセットと合わせて、朝の忙しい時間に役立ってくれる。1万8000円(PUEBCO)



1_INOUTのダブルコーヒードリッパースタンド



2_CAMPonPARADEのケトル



3_COGLAN'Sの
 フォールディングトースター



4_PUEBCOのピバレッジディスペンサー



ひとり暮らしの男のキッチンには、手軽に料理ができるキャンプ用がちょうどいい。

僕 の友人に大のキャンプ好きがいる。その彼の話をもう少し続けるが、今度は料理についてだ。「キャンプでする料理なんてBBQぐらいだろう」と言うと、友人は全然違うと言って怒りはじめた。よくよく聞くと、フライパンやヒーター、トースターやコーヒードリッパーなど、コンパクトに収納できるアイテムを持ち寄って自炊するのだという。カレーやスープを煮込んだり、ダッチオーブンを持ち込んでビーフシチューやラザニアを作ることもあるとか。他にもホットケーキ、ボルシチ、天ぷら、もしくは豚汁と魚と米という和食メニューでまとめることもあるというから驚いた。「昨晚遅くまで食べて飲んだのに、朝それぞれのテントからちゃんと起きてきて、みんなで富士山の向こう側から昇る日の出を待ちわびたんだ。その時間が結構良かった」などと彼は言う。そして、普段キャンプで使っているキッチン用品を慣れた調子で扱いながら、トーストと卵とソーセージを焼き、ドリッパーで淹れてくれた。いわく、アウトドア用はすぐ湯が沸かせたり熱伝導率のいいものが多いので、部屋で料理をするのにも手軽で使い勝手がいいらしい。大自然の中ではなかったが、それらはとても美味しかった。

PUEBCOのピバレッジディスペンサー (2.5L) 1万8000円、PUEBCOのボトルシェイブドフラワーベース2000円、PUEBCOのボトルシェイブドフラワーベース4000円、LODGEのスキレット (9inch) 4000円、COGLAN'Sのフォールディングトースター 750円、GSIのスペースバッチャセット 1600円 (すべてA&F)、Fullerのオーストラリアンパスタ 2600円、ねずみとり 2800円、Kalitaのウェーブコーヒードリッパー 2800円、Kalitaのウェーブコーヒーフィルター (50枚入り) 330円 (すべてThe Tastemakers & Co.)、INOUTのダブルコーヒードリッパースタンド 9000円 (INOUT)、je standard Furnitureのゲルニカマグカップ 2100円 (je standard Furniture吉祥寺店)、PRIMUSのCFカッティングボード 8000円 (イワタニ・プリムス)、CAMPonPARADEのケトル 1万6000円 (CAMPonPARADE)、その他すべてスタイリス



1_PVCSのコートハンガー



と外の間にある玄関が、実は1番アウトドアスタイルが似合う場所。

2_conc.のハンティングチェア



3_Snow Peakのシェルフコンテナ



4_CAMPonPARADEのツールバッグ



僕
の友人に大のキャンプ好きがいる。その彼の話はこれが最後なので、もう少しだけ聞いて欲しい。アウトドアスタイルを完璧にインテリアに取り込んでいる友人の部屋で1日を過ごし、その日はちょっとしたキャンプ体験をした気分になっていた。そろそろ帰ろうかと思って玄関に向かうと、どうやらそこにもひとつのキャンプサイトがあることに気づく。木を集めてきたようなシンプルなコートハンガー、靴を履くときに便利な高さのハンティングチェア、運搬や収納用のコンテナはシューズボックスに。奥行きのない玄関の棚にぴったりの細長いツールバッグの中には、釣り道具やブランケットが突っ込んであった。山歩き用の靴やランタンもまるでインテリアのように玄関に収まっている。無造作に置かれたピッケルは防犯用だろうか、と少し笑ってしまった。「玄関にあるものを持って、飛び出すように出てきたキャンプもある。足りないものは着いてから、その場でいろいろ考えて工夫していく。これもまた面白い。もちろん晴れは最高だけど、天気予報もチェックせずにやってきた雨や雪の日のキャンプも悪くない」と彼は言う。確かに悪くなさそうだ、と思いながら僕はその部屋を後にした。

Snow Peakのシェルフコンテナ 9600円 (Snow Peak)、PVCSのコートハンガー 2万円 (abode)、PUEBCOのアンブレラバッグ 1500円 (PUEBCO)、CAMPonPARADEのツールバッグ 8000円、hiro4projectのサイドテーブル 5000円、conc.のハンティングチェア 2万7600円 (すべてCAMPonPARADE)、ALTERNATIVEMEDIAのポスター (フレーム別) 2800円 (BRICK&MORTAR)、journal standard Furniture × ideas and PAINTINGのウォールクロック 1万8000円、journal standard Furnitureのダックスリッパ 6000円 (ともにjournal standard Furniture 吉祥寺店)、PENDLETONのフリンジスマールマット 8000円 (A&F)、その他すべてスタイリスト私物

1 アトアッシュの木をPVCでジョイントした、これ以上ないほどシンプルなコートハンガー。アウターやバッグ、帽子など好きなものを10kgまでかけられる。ゴチャゴチャしがちな玄関まわりをすっきりまとめられる逸品。2万円 (abode) にバッグと座れるハンティングチェア。木の種類はウォールナットかホワイトアッシュで選べるほか、脚、革、裏地などはオーダーもできる。このクオリティの違いは見ればわかるはず。2万7600円 (CAMPonPARADE) 2 運搬に使用してもよし、広げて重ねれば棚にもなるコンテナ。1個の積載量は20kgまで、3個まで積み上げられる。車に積み込んだり、キャンプで棚として使ったり、部屋で収納に使ったりと用途は自分次第。9600円 (Snow Peak) 3 3 4



ドアを飛び出して、
そういう意味のアウトドア。

ア

アウトドアを題材にドタバタコメディを作らせたら、ハリウッド映画はピカイチだと思う。ニューヨーカーをマカロニウエスタンの世界へと突き飛ばす、ビリー・クリスタルの『シティ・スリッカーズ』なんかはその典型だろう。ここでコレクションするのは、いわゆるそれ系と、それ系ではないのをミックスして、どちらが好みか考えてみたいと思う。心拍数へ直接訴えてくる冒険的アウトドアなら、『グーニーズ』や『Oh! ベルシー絶体絶命』（ブルース・ブラザーズで名を馳せたジョン・ベルシー主演）、ドキュメント作品『180° SOUTH』などがオススメ。逆にドタバタしない、どちらかというと、もろアウトドア(=焚き火がセットな)とか無理でず的なセンチメンタリズムのもの。やっぱり海っていいよね。自然と共生する人ってシリアスで美しいよね。スケボーってアウトドアっていうかアウトサイダーっていうか都会っぽいよね。そういうアウトドア(!?)な作品は、『キッズ』『ブリー』『ケン パーク』のラリー・クラーク作品群をはじめ、『ロード・オブ・ドッグタウン』『パラノイドパーク』『イン・ゴッズ・ハンズ』『グランブルー』『リバー・ランズ・スルー・イット』『イントゥ・ザ・ワイルド』などが思い浮かぶ。そして、個人的には後者のほうがしっくりくる。アーバンライフにおいてドアを開けてアクションをするには、大冒険活劇よりも、好きなことをするだけでアウトドアの一部だったりするような、なんとなく感じがよいのだ。なんとなくアウトドアなインテリア、それもまたしかり。

いい映画はたくさんあるけれど、ドアを開けて外へ出掛けるための映画の一部をコレクション。『そんな気になれない』なんていうときこそ、BGM代わりに再生しておくこと、なんとなく外のことも気になるはず(かもしれない……)。

手本になる本を手にとり暮らしをスタートさせる。



「REISM meets RIGNA A ROOM TOKYO」では、他とは違うワンランクアップしたリノベーションルームを「A ROOM」と呼んでいる。その物件の中には、「A」の部分アウトドア的なワイルドさや屋外感だったりコンセプトにしたものもある。ガレージやラフと名付けられたこの4つの部屋は、アウトドアアイテムをレイアウトする前からすでに余韻が漂う空間に仕上がっている。都会にいながらして、アウトドアを実践したいwarp読者にとってはうってつけ。

REISM meets RIGNA A ROOM TOKYO.

「REISM meets RIGNA A ROOM TOKYO」warp読者にオススメ。不動産会社「REISM」とインテリアショップ「RIGNA」による、東京でのひとり暮らしをワンランクアップしてくれるライフスタイル提案本。まずは書店まで。



今回のインテリアグラビアに撮影協力してくれた不動産会社「REISM」。屋外と屋内が融合したまさにイン&アウトなガレージタイプのワンルームリノベーションを求めるなら「REISM」へ。www.re-is.jp

ナザアングル。ここでは遠藤慎也流インテリアで使うアウトドアの話とアングルを変えて、その他の部屋のサンプルを少し紹介しようと思う。ちなみに本当のアウトドアというのは、例えば、アルゼンチンのフィッツ・ロイの氷壁を登攀する登山でビバークするとかっていう類いのものは、『Outside』などの専門誌を読むのがベストだろう。現場における重大な事故などを防ぐためには、間違いなくその本をオススメしたい。まずアウトドアにはシリアスなものが含まれていることを大前提にしておくことで、アイテムひとつ、アイテムひとつ、それぞれにある機能やギミックが目に落ちる。だから、このブライスのなかで、(車や

高価なアクセサリのように代々売り継がれていく)インテリアにはまだ手が届かない。だけど、チープ過ぎるものもイヤ。それなら、いっそのことお気に入りのアウトドアスタイルをインテリアに投影してしまおう。そのアイデアは、都心で働く20~30代の"スタイルのある"シングルマンにはうってつけだろう。ということで、アメリカのガレージや秘密基地を彷彿させる部屋は、もともとがそのコンセプトでリノベーションされているから話が早い。東京でのラフでワイルドな、だけど至れり尽くせりなひとり暮らしが今すぐにスタートできる。だから、スタートでつまづきたくない人は、まずは部屋選びの段階から、このような"アウトドアな感じ"をチャートに入れておくことをオススメしておきたい。